

## 通学路の安全対策について

### ～ウェアラブルカメラで通学路の安全点検を実施中～

#### 1 背景について

2021年、全国で起きた交通事故の件数は約30万件以上であり、6月には千葉県八街市で、下校中の小学生が犠牲となる痛ましい交通事故も発生しました。厚木市内においても、711件の交通事故が発生し、うち31件は中学生以下の子供が関連した事故でした。

通学路の安全対策につきましては、市ではこれまでも小・中学校から通学路の危険箇所の改善要望を受け付けるなどの対応をしてきましたが、八街市の事故を受け、新たにウェアラブルカメラを活用した通学路の点検を実施することとしました。

カメラを使い、自治体と学校が協力して交通安全対策に取り組むのは全国でも初めての取組となります。

#### 2 実施内容について

6月からモデル校として実施している小学校につきましては、ISS（インターナショナルセーフスクール）認証校である妻田小学校及び清水小学校であり、現在、その2校で児童のランドセルに小型カメラを付け、子供の目線で通学路の映像を撮影し、その映像から通学路の危険箇所などを把握しているものです。

具体的には、集団登校中の先頭と最後尾の児童に小型カメラを付け、普段の通学の様子を撮影してもらい、見通しの悪い交差点や幅の狭い歩道、通勤時間帯の交通量が多い場所などに加え、大人の見線では見えにくい危険箇所がないか点検しました。撮影は、登校・下校時の1回ずつ行っていますが、危険箇所だけでなく、子供の危険な行動なども把握することができています。

撮影した映像は、市職員や県土木事務所、厚木警察署で構成する通学路の安全対策協議会で共有し、検証していきます。

モデル校における意見としましては、「信号の手前に待機場所がない」「横断歩道があるにもかかわらず、手前で横断している」などの意見が挙がっております。

#### 3 今後の取組予定について

今後につきましては、モデル校2校から挙げた意見を集約し、それらの問題点を改善するため、歩道の延長やカラー舗装、歩道に歩行者の停止を示すフットマークの設置などの検討を進めていきたいと考えております。

9月からは、残りの21校も同様に、点検・検証し、子供たちが安全に学校に通えるよう、順次安全対策を講じていきたいと考えております。

